

事業概要書

事業名	日本語を母国語としない子どものための 学習支援事業
団体名	認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会
事業担当課	国際推進課

事業概要	
日本語を母国語としない子どもの学習面及び生活面を支援するとともに、地域の人々に日本語を母国語としない子どもに対する理解を促す。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市では外国籍市民数が年々増加しており、それに伴い日本語を母国語としない子どもも増加している。こうした子どもたちの中には、言葉の障壁や、文化の違いにより、周囲と円滑なコミュニケーションが行えない、授業を理解できない、就学や就労の情報が得にくいといった問題を抱える者がいる。このような問題が、地域から子どもを孤立させたり、子どもの学習機会の喪失につながるものが危惧される。
事業の目的	<p>① 日本語を母国語としない子どもへ、日常生活や学習に必要な日本語指導及び学習支援を行い、すべての子どもが均しく学び、就学や就職など将来における選択肢を幅広く持ち、真に自立することを促す。</p> <p>② 子どもが地域から孤立しないための時間と場所を提供し、安心して暮らすことのできる環境づくりを推進する。</p>
事業内容	<p>【事業の目的①を達成するための事業】</p> <p>下記3点を通じて、日本語を母国語としない子どもを対象にした学習及び生活支援を強化する。</p> <p>i. <u>定例勉強会の受け入れ生徒を増やす</u></p> <p>本市転入時に勉強会のチラシの配布や市及び国際交流協会の広報媒体を通じて、日本で生活することに不安を抱く子どもやその保護者等学習及び生活支援が必要な層に当勉強会の存在を知ってもらい、受け入れ生徒を増やす。当勉強会へ通うことを通じて就学や就職への選択肢を広げてもらう。</p> <p>文化ホール教室 土曜 中学生対象 常盤平教室 火曜 小学生対象 木曜 中学生対象 土曜 小学生対象</p>

	<p>新松戸教室 水曜 小中高生対象</p> <p>ii. <u>オンライン教室の導入</u></p> <p>遠方や遅い時間でも参加できるように、オンライン勉強会を導入する。</p> <p>【事業の目的①と②を達成するための事業】</p> <p>i. <u>集中勉強会&amp;交流会の担い手を増やす</u></p> <p>当勉強会は、夏休みや冬休みに遠足や社会科見学など課外授業を実施している。こうした課外授業の企画・運営に、団体のスタッフだけではなく、当勉強会の卒業生、市内の高校生、大学生や社会人ボランティア、地域の人々、令和4年度に開催した講座受講者に参加してもらう。身近な大人が担い手になることで、当勉強会の生徒が様々な大人像を見ることができ、将来の選択肢を考えるきっかけを創出する。また、地域の人々に日本語を母国語としない子どもと接する機会を創出し、先入観や偏見を払拭し、子どもへの理解を促す。</p> <p>ii. <u>地域との協働</u></p> <p>日本語を母国語としない子どもの多い地域の町会・自治会館などで、外部講師による子供向けの多文化共生やキャリア形成に係る講座を開催するとともに、出張授業を実施する。</p>
協働の必要性	<p>松戸市では、将来を支える子どもたちのために様々な施策を展開している。その一環として日本語を母国語としない子どもが地域で孤立することなく暮らしていけるよう、日本語指導及び学習支援を実施することが重要と考えている。当会は外国人の子どもを対象に学習支援事業をしている。</p> <p>行政が、当勉強会と連携することで、言語の障壁や、文化の違いのために、日常生活を送ることにストレスや不安を感じる子どもたちに居場所を提供することができる。また、地域と子どもたちのかかわりを構築し、地域の人々に日本語を母国語としない子どもへの理解や協力を促すことができる。</p> <p>また、当勉強会が、行政と連携することで、行政の抱える課題の共有、事業の周知及び会場の確保を一層強化することができ、かつ事業活動の範囲を広げることができると考えている。</p>
事業の目標	<p>① 生徒数増（令和4年度末人数+10名）</p> <p>② オンライン教室を1学期以上開催。</p> <p>③ 学習&amp;交流支援事業：スタッフ以外の者と企画運営する集中勉強会&amp;交流会を1つ以上実施。</p>

## 事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 2,066,104	協働事業及び既存事業の運営

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 28,420	事業費の一部を団体の会計より拠出
	寄付金	¥ 100,000	
	生徒参加費	¥ 180,000	3,000円×3学期×20人
	自己資金の合計額 (B)	¥ 308,420	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 500,000	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 808,420	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 140,000	短期集中勉強会&交流会 外部スタッフ謝金 1,000円×20人×5回 地域との協働 外部講師 40,000円×1人×1回
	消耗品費	¥ 50,000	インク・コピー用紙・文房具・手指消毒液、事務用品、マスク、フェイスシールド、パーティション、非接触型体温計等
	印刷製本費	¥ 130,000	定例勉強会 生徒募集チラシ印刷（日本語・中国語・英語・ベトナム語） 20,000円（20円×250部×4言語） 短期集中勉強会&交流会 チラシ印刷 10,000円（20円×500部） 講座資料印刷 40,000円（20円×2,000部） 各教室教材 2,000円×30冊
	使用料及び賃借料	¥ 322,420	定例教室使用 常盤平教室：19,000円×12回、新松戸教室：700円×38回 受験教室使用 920円×11回 700円×11回 オンライン教室開催用 ポケットWi-Fi、ZOOM ID 50,000円
	対象経費の合計 (E)	¥ 642,420	
（その他）経費	食糧費	¥ 30,000	行事当日担当会員の昼食代 600円×10人×5回
	印刷製本費	¥ 30,000	会報 10,000円×3回
	通信運搬費	¥ 76,000	寄付領収書送付 10,000円 活動報告会報郵送代 22,000×3回
	その他	¥ 30,000	オンライン会議用PC
	その他経費の合計額 (F)	¥ 166,000	
合計額 (G) = (E + F)		¥ 808,420	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

# 労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×953円
	外部支援者との交流打ち合わせ (年間10回開催)	95,300 円	5 人 × 2 h × 10 回 × 953 円
	既存事業強化の検討及び実施	152,480 円	8 人 × 2 h × 10 回 × 953 円
	既存事業の運営	1,761,144 円	42 人 × 2 h × 22 回 × 953 円
	オンライン勉強会の実施	57,180 円	3 人 × 2 h × 10 回 × 953 円
	合 計 (A)	2,066,104 円	